

現状と課題

【H28～R2の間に退所した60人のうち、進学・就職した58人の状況】

退所先	ステージ別	通学就労継続	退学退職
家庭	ステージ5	9人(15.5%)	8人(13.8%)
	ステージ4	4人(6.9%)	7人(12.1%)
	ステージ3	4人(6.9%)	14人(24.1%)
	ステージ2	0	2人(3.4%)
施設	ステージ5	1人(1.8%)	0
	ステージ4	4人(6.9%)	1人(1.8%)
	ステージ3	2人(3.4%)	2人(3.4%)
	ステージ2	0	0
合計		24人(41.4%)	34人(58.6%)

- 入所期間が短い等の理由から、ステージ5まで支援を行うことができず、中学卒業により家庭引き取りとなる場合がある。
- ステージ4以下で家庭引き取りになった子どもは31人/58人(53.4%)。そのうち、約7割(23人/31人)の子どもが、高校等を中途退学又は退職している。
- ステージ5まで達成している子どもについても、家庭引き取り後に親子関係の不調や学校の勉強のつまづき、友人関係の問題等から、通学・就労が継続しない場合がある。

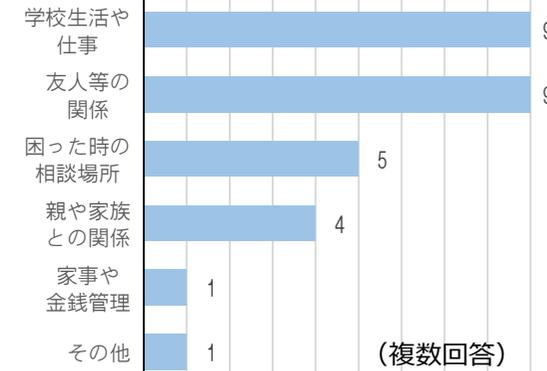
中卒児支援の二一ズ

○退所児童へのアンケート調査の結果（R3.3実施）

H30～R2に退所した子どものうち、連絡先が把握できた31名へ調査した結果、14名より回答あり

【退所前に心配だったこと】

- ・高校での勉強に関することや、家族・友人との関係
- ・学園職員と離れることや、相談相手がいないこと



【退所後にサポートして欲しい場面】

- ・学校や仕事が上手くいかないとき
- ・住居探しや求職活動のとき
- ・経済的な心配があるとき

【必要だと思われる支援】

- ・高校に通学しながら家庭で生活する方法を考えたかった。
- ・一定期間学園で生活しながら、高校生活に慣れていきたかった。
- ・退所直後に学園職員と話することができる機会を設けてほしい。
- ・学園内外で定期的（月1～2回程度）に面会をしたり電話連絡をしてほしい。

支援の方向性

- 中学卒業時点において、引き続き支援が必要な子どもについては、施設における支援体制を検討する必要がある
- 退所児童については、地域における支援体制の構築が必要である

中卒後の支援	課題	検討が必要な内容
在宅支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活や進路に関すること</li> <li>・仕事やアルバイトに関すること</li> <li>・家族や友人との関係について</li> <li>・金銭管理や経済面に関すること</li> <li>・住居に関すること</li> <li>・心身の不調や病院受診に関すること</li> </ul> <p>相談対応等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① それぞれの課題に応じた支援のあり方について</li> <li>② 支援を行う体制について</li> <li>③ 必要な環境整備について</li> </ul>
学園支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内処遇の子どもとの起床時間の違いや、学校や仕事の準備など、子どもの生活に応じた対応</li> <li>・通学、通勤の送迎が必要な場合への対応</li> <li>・学校や職場等との情報共有や、問題が起こった場合への対応</li> <li>・帰寮時間が異なる子どもに応じた日課の調整</li> <li>・高校生については、定期テスト等への学習支援</li> <li>・施設外における過ごし方やルール等に対する子どもの理解</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校受験を翌年度に行う場合の学習支援</li> <li>・求職活動や職業訓練等への対応</li> <li>・日中の活動等、学齢児と異なる日課の調整</li> </ul>	